P-233 新規CPAP導入患者に対するクラウド型CPAP管理システムの有用性の検討

○坂口　優美[1]、松本　直哉[1]、田中　直美[1]、酒井　利恵[1]、柿田　康一[1]、川崎　昭子[1]、伴　美穂子[1]、門田　耕一郎[2]、吉嶺　裕之[1]

[1]社会医療法人春回会井上病院睡眠センター、[2]長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療学分野

【はじめに】近年、クラウド型CPAP管理システムにてCPAPアドヒアランス評価が可能になっており、当院では2015年7月よりフィリップス社のEncoreAnywhereを導入している。今回我々は、新規CPAP導入者のうち従来のSDカードで評価を行う場合（SD群）とクラウド型CPAP管理システムにて評価を行う場合（EA群）のアドヒアランス（以下Ad）を比較検証した。【対象者】2014年7月～2015年6月までの12か月間のSD群は74人（男性63人、女性11人）であった。一方2015年7月～2015年12月までの6か月間のEA群は46人（男性37人、女性9人）であった。【方法】Ad不良の基準は、使用率70%以下、平均使用時間4時間未満、マスクリーク50ml／min以上、平均AHI10以上、またCPAP貸出時に使用継続に不安がある患者とした。両群に対しCPAP導入後2週間、1ヶ月、2ヶ月目にAdチェックを行った。ただし、EA群に対しては導入1週間後を追加した。Ad不良の場合にはSD群は定期外来時に介入し、モデム群は電話介入を行った。【結果】SD群の介入患者は2週間後22人（29.7%）、1ヶ月後5人（6.8%）であった。その結果2ヶ月継続者数は59人（79.7%）であった。EA群の介入患者は1週間後17人（37.0%）、2週間後4人（8.7%）、1か月後1人（2.2%）であった。その結果2ヶ月継続者数は43人（93.5%）であった。【結語】モデムを導入する事で遠隔にてCPAP アドヒアランス状況を把握し、患者へ早期介入を行うことが可能になり、CPAP離脱者を減少させることが期待できると思われた。